

五社神社本殿和鏡調査報告書

平成 17 年 9 月 6 日

宮代町教育委員会 河井伸一

1) 調査理由

平成 17 年 5 月 21 日に行われた第 1 回文化財保護委員会にて文化財指定候補 8 件について審議が行われた。会議の際、五社神社和鏡について点数の確認等の詳細な調査が必要であるとの決議に基づき、調査が計画された。

調査は、社寺総合調査で確認された和鏡 8 面と鏡箱及び台座について実施した。基本的には、所在場所を重視し、写真撮影を行い、計測作業や刻印等の筆写作业を実施した。その後、報告書作成にあたり、墓石や古文書などの関係資料の調査も行った。

2) 調査日時

現地調査 平成 17 年 8 月 30 日（火）13 時～15 時

報告書作成 平成 17 年 9 月 2 日～3 日、6 日

3) 場所

宮代町字東 90 宗教法人五社神社 本殿

4) 調査者

宮代町文化財保護委員 島村圭一（元宮代町史編集委員）

宮代町教育委員会 河井伸一

立会人 伊草侃斗氏（五社神社総代、元宮代町文化財保護委員）

5) 五社神社の概要

(1) 五社神社の歴史

五社神社は旧西光院の境内に所在する。明治初年の神仏分離以前は西光院が別当寺であり、東神外から西神外に至る広大な百間山光福寺西光院を構成する一社であった。五社神社は、「西光院勸進帳」によると奈良時代の養老年間や天平年間に建立されたという。しかし、現在確認できる確実な時代は、本殿の様式から推定できる室町時代後期から安土桃山時代である。なお、五社神社と阿弥陀堂との間に明治初期まで所在した雷電宮には天文 22 年（1553）銘の鰐口が所在した。また、阿弥陀堂や西光院本堂四脚門は室町時代の建物である可能性があり、阿弥陀三尊像は安元 2 年（1176）に造営され、長祿 2 年（1458）に修理されたことが確認されている。

(2) 五社神社本殿の建築時代

五社神社本殿は、室町時代後期から安土桃山時代に建造されたと推定されている。埼玉県内では非常に珍しい五間社流造の建物で木柄の細い簡素な軸部及び垂木の強い曲がりや古様を示しており、細部の様式から室町時代後期から桃山時代の建立と推定される。但し、身舎正面及び向拝中央間の臺股は様式的に時代が下り、材も他の部材に比して新しく、後補と考えられる。本殿内に所在する和鏡の銘に元禄 14 年（1701）とあることや、元禄 12 年の「西光院勸進帳」に、五社神社再興のための寄付のことが記されており、この頃修理が行われた可能性がある。

本殿は、昭和 37 年に埼玉県指定有形文化財に指定され、昭和 49 年に 1230 万円をかけて解体修理が行われた。

(3) 和鏡内の仏像について

五社神社は別当寺として西光院があり、明治初年まで神仏習合の社であった。そのため、五社神社本殿に所在する和鏡内に仏像が安置されていたと考えられる。

元禄 14 年に嶋村新右衛門や鈴木治左衛門などにより奉納された和鏡内の仏像は、阿弥陀如来・釈迦如来・千手観音・毘沙門天・不動明王であったとされるが、今回の調査により釈迦如来は薬師如来の誤りであることが確認された。一方、五社のそれぞれの本社は、紀州熊野三社と近江山王社、白山社であり、本地垂迹説によると熊野本宮の主祭神は阿弥陀如来、熊野新宮の主祭神は薬師如来、熊野那智大社の主祭神は千手観音である。白山社はそれぞれの峰ごとに本尊が祀られており、山王社の主祭神は大日如来である。いずれの神社も修験道や密教と深い繋がりがあり、西光院や五社神社を考える上で非常に興味深い。

明治 39 年白山山頂の北の連峰上にあたる石川県の笈岳山頂で永正 15 年の太田庄光福寺銘の経筒が発見された。太田庄光福寺は西光院の寺号であり白山信仰との関連が伺われる。

6) 調査の内容

本殿内は 5 間に分けられており、それぞれ、箱付で元禄 14 年銘が刻まれた和鏡が存在した。ここでは、便宜的に南から北にかけてそれぞれ各間を本殿①～本殿⑤と表記することにする。本殿②には「奉納五社権現御宝前御鏡一面 願主武州埼玉郡太田庄西百間村惣氏子中 本願嶋村新右衛門勝政 元禄十四年辛巳九月九日」と記された台座を持つ柄付和鏡が確認された。④と⑤にも柄付和鏡が確認され、箱付の 5 面の和鏡と併せ 8 面の和鏡が確認された。ここでは各間ごとに調査結果を記す。

なお、これらの箱付の和鏡については明治初年の神仏分離の際、五社神社本殿から阿弥陀堂に移動した。しかし、阿弥陀堂の解体修理の際に五社神社及び西光院の総代であった伊草盛一氏が預かりその後、五社神社に奉納した経緯がある。

(1) 本殿①

和鏡表

No.	名称	長径	厚さ	銘
1	和鏡	21.4cm	5 mm	元禄十四辛巳年五月吉日 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">三引き両</div> 二橋伊豆守作 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">六つ輪法</div> 法印権大僧都宗
	和鏡箱	22.8cm	5.4 mm	右:元禄十四年辛巳年五月吉日 左:施主法印権大僧都宗

仏像表

名称	高さ	最大幅	備考
毘沙門天像	10.2cm	5.2cm	1 の内部
台	7.8cm	20cm	1 の内部

北側に和鏡、南側に御幣が安置される。和鏡箱は観音開きとなっており、左右に銘が刻まれる。内部には毘沙門天像が安置する。挟み紙には「御鏡屋 二橋伊豆守 藤原吉重」とある。和鏡の家紋は、二引き両を誤り記載したものか。二引き両は西光院の寺紋であり、古河公方足利氏の家臣であった幸手一色氏も同じ二引き両であった。この和鏡に2つの家紋が刻まれているのは不明であるが、西光院の家紋と住職家の家紋や西光院の表紋と裏紋を表したものかもしれない。

(2) 本殿②

和鏡表

No.	名称	長径	厚さ・高さ	備考 (銘など)
2	和鏡	鏡部 30.6cm 柄部 10.8cm	縁部 6 mm 体部 4 mm	津田薩摩守作 鶴と松が描かれる。
	台座	27.4cm	28.5cm	奉納 五社権現 御宝前 御鏡 一面 願主 武州太田庄西百間 村惣 氏子中 本願 嶋村新右衛門勝 政 元禄十四年辛巳九月九日

3	和鏡	21.3cm	5 mm	元禄十四辛巳年五月吉日 丸に四目木瓜 二橋伊豆守作 当所住青井七右衛門
	和鏡箱	22.7cm	5.3cm	右:元禄十四年辛巳年五月吉日 左:施主青井七左衛門

仏像表

名称	高さ	最大幅	備考
千手観音像	7.5cm	4cm	3の内部
台	4.9cm	20.5cm	3の内部

北側に台座を伴う和鏡、中央部に箱付の和鏡、南側に御幣が安置される。北側の和鏡（No.2）は御神体とされている。中央の和鏡（No.3）の箱は観音開きとなっており、左右に銘が刻まれる。内部には千手観音像が安置する。挟み紙には「御鏡屋 二橋伊豆守 藤原吉重」とある。

和鏡の箱には施主として「青井七左衛門」が記載されるが、和鏡には「当所住青井七右衛門」と刻まれる。字東に所在する観音寺に青井氏の墓石が残る。板碑型の墓石で「心源宗清信士 俗名 青井氏 貞享元歳（1684）甲子九月二五日」とある。この青井氏墓石には「四目紋」が刻まれていることから、和鏡を奉納した青井氏と観音寺青井氏墓石とは関係があると推定される。また、五社神社が所在する百間東村と同じ領主である須賀村の戸田家文書には、天和 2 年（1682）の年貢割付状に旗本永井氏の家臣として青井七右衛門が確認できる。

これらのことから、青井七右衛門は、百間東村の領主であった旗本永井氏の家臣であると考えられ、在地支配を行っていた役人の一人であると推定される。「当所住」ということは、旗本永井氏の陣屋が百間にあった可能性も考えられる。なお、旗本永井氏は寛永元年（1624）に百間東村と須賀村の一部併せて千石を幕末まで支配した。

本殿⑤の間に所在する和鏡No.8の阿弥陀如来像台裏に「麴町三町目横丁南ノ方 天神ノ下 永井美濃守内」とあるが、あるいは、青井氏の奉納した和鏡No.3内に本来あったものが、和鏡No.8に移動した可能性もある。

(3) 本殿③

和鏡表

No.	名称	長径	厚さ	銘
-----	----	----	----	---

4	和鏡	21.3cm	4.5 mm	元禄十四辛巳年五月吉日 丸に鯉巴 二橋伊豆 守作 百間東村鈴木治左衛門
	和鏡箱	22.9cm	5.0 mm	右:元禄十四辛巳年五月吉日 左:施主鈴木治左衛門

仏像表

名称	高さ	最大幅	備考
阿弥陀如来像	7.7cm	3.1cm	4 の内部
台	8.5cm	20cm	4 の内部

中央から南側に、比較的新しい御幣が 3 つあり、北側に古めの御幣が 1 つ確認できた。和鏡No.4 は古めの御幣の前に安置される。和鏡箱は観音開きとなっており、左右に銘が刻まれる。内部には阿弥陀如来像が安置する。挟み紙には「御柄付鏡 神田杉若筑後 御鏡師 藤原吉重 通鍋町」とある。和鏡の家紋は、鯉を巴紋状に配置する。鈴木治左衛門家の家紋かどうかについては不明である。

鈴木治左衛門は、戦国期の百間郷領主鈴木雅楽助の子孫にあたり、『新記』には後北条氏当主や岩付北条氏などから与えられた古文書が 6 点あったと記される。鈴木治左衛門家は百間東村の名主を江戸時代初期から中期にかけて勤めた。治左衛門より数代前の八左衛門直元は百間東村の領主であった永井豊前守直定より「直」の 1 字を与えられている。また、直元の養子である甚五左衛門重元は幼名を蝶治郎と言い、永井直定の甥にあたる。現在、鈴木家には永井豊前守直定・永井備前守直澄・永井対馬守直孟の旗本永井氏 3 代の位牌が伝えられている。

(4) 本殿④

和鏡表

No.	名称	長径	厚さ・高さ	備考 (銘など)
5	和鏡	鏡部 17.5cm 柄部 9.1cm	縁部 4 mm 体部 3 mm	藤原光長作
	和鏡箱	22.9cm	5.1cm	右:元禄十四年辛巳年五月吉日 左:施主鳴村新右衛門

仏像表

名称	高さ	最大幅	備考
不動明王像	9.4cm	3.4cm	6の内部
台	7.5cm	20.3cm	6の内部

南側に柄付和鏡 (No.5)、中央部に御幣、北側に箱付の和鏡 (No.6) が安置される。北側の和鏡 (No.6) の箱は観音開きとなっており、左右に銘が刻まれる。内部には不動明王像が安置する。挟み紙には「御鏡屋 二橋伊豆守 藤原吉重」とある。和鏡の箱には施主として「嶋村新右衛門」が記載されるが、和鏡には「嶋村新之丞」と刻まれる。嶋村家は代々新右衛門を襲名し百間西村 (百間中村) の名主を江戸時代初期から明治時代初期まで勤めた。新之丞については不明であるが次当主の幼名の可能性もある。しかし、和鏡と和鏡箱との関係からすると和鏡に刻む際、誤った可能性も否定できない。和鏡No.6 の家紋は、「陰陽違い釘抜」を誤り刻印したものと推定される。

(5) 本殿⑤

和鏡表

No.	名称	長径	厚さ・高さ	備考 (銘など)
7	和鏡	鏡部 23.9cm 柄部 9.8cm	縁部 5 mm 体部 4 mm	
8	和鏡	21.1cm	4.5 mm	元禄十四辛巳年五月吉日 木瓜に二引き 二橋伊豆守作 戸崎村鈴木源左衛門
	和鏡箱	22.9cm	5.2cm	右:元禄十四年辛巳年五月吉日 左:施主鈴木源左衛門

仏像表

名称	高さ	最大幅	備考
薬師如来像	7.5cm	3.3cm	8の内部
台	7.5cm	20cm	8の内部

北側に柄付和鏡 (No.7)、中央部に御幣、南側に箱付の和鏡 (No.8) が安置される。南側の和鏡 (No.8) の箱は観音開きとなっており、左右に銘が刻まれる。内部には薬師如来像が安置する。挟み紙には「御柄付鏡 神田杉若筑後 御鏡師 藤原吉重 通鍋町」とある。和鏡には「戸崎村鈴木源左衛門」と記載される。「戸崎村」とは「寺

村」と共に百間東村の旧称として使用されることがあるが、狭義の「宇戸崎」とは東光院や広照坊などが所在した西光院より道を挟み南東側の地区を表す。戸崎で由緒がある鈴木家は現在、「中のうち」と呼ばれる鈴木幹夫家がある。鈴木幹夫家の先祖に源左衛門が存在するかは不明だが、その可能性もあると考えられる。

和鏡No.8に安置される薬師如来像台の裏に「麴町三町目横丁南ノ方 天神ノ下 永井美濃守内」とある。この銘は、社寺総合調査でも確認されておらず、これら和鏡と百間東村の領主旗本永井氏の関係が伺われ興味深い。しかし、和鏡No.8を奉納した戸崎村の鈴木源左衛門と旗本永井氏との関連が伺えないことから、旗本永井氏の家臣である青井七右衛門が奉納した和鏡No.3に本来安置されていた薬師如来像が、和鏡No.8に移動した可能性が高いと考えられる。

(6) まとめ

今回の調査で新たに発見した特筆すべき事項としては、和鏡No.8に安置される薬師如来像台の裏に「麴町三町目横丁南ノ方 天神ノ下 永井美濃守内」とあったことである。これは社寺総合調査でも確認されておらず、百間東村の領主と五社神社とを結ぶ非常に貴重な発見であるといえる。

また、今回の調査で和鏡が8面確認されたが、五社神社の御神体である台座を伴う和鏡No.2と箱付和鏡である和鏡No.1・No.3・No.4・No.6・No.8が文化財指定の対象となりうる和鏡であると考えられる。他の2面の和鏡については不明であるが、現在の五社神社では明治42年の巖島社・第六天社の合祀などにより8神が祀られていることから、本来あった6面に付け加えられた可能性もある。

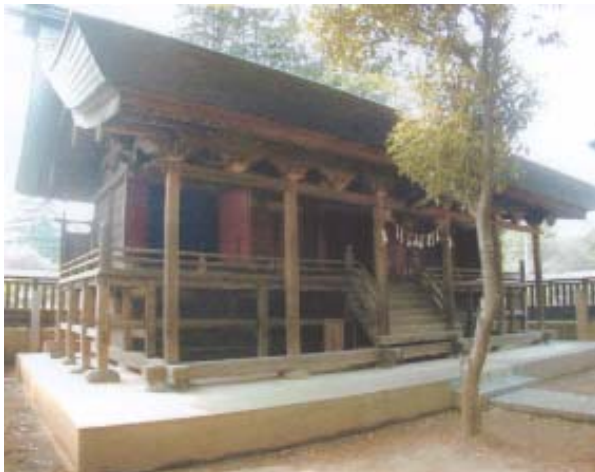
五社神社総代の伊草侃斗氏によれば、神仏分離の際、阿弥陀堂に箱付和鏡が安置されたことから、本殿各間と和鏡の関係は不明であるとのことであった。このようなことから、和鏡内の仏像を誤って入れ替えてしまった可能性もあり、先に指摘したとおり、和鏡No.8内の薬師如来は、百間東村の領主旗本永井氏との関係から和鏡No.3を奉納した永井氏家臣青井七右衛門との関係が伺われる。

(参考文献)

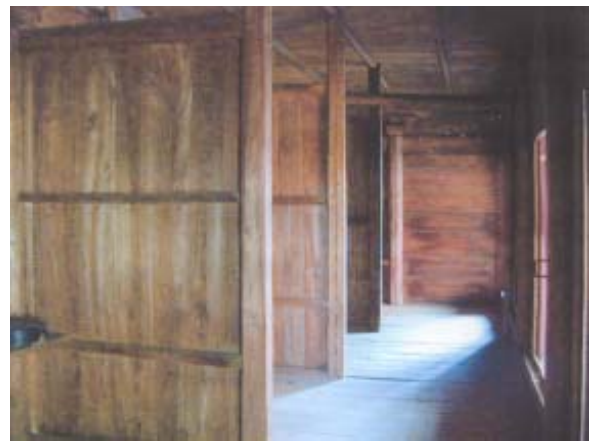
- 宮代町教育委員会 『社寺総合調査報告書Ⅰ』(宮代町史資料第3集) 1993
- 宮代町教育委員会 『社寺総合調査報告書Ⅲ』(宮代町史資料第11集) 1997
- 宮代町教育委員会 『戸田家文書』(宮代町史資料第2集) 1992
- 宮代町教育委員会 『みやしろ風土記』1989
- 宮代町教育委員会 『宮代町の中世遺物』(宮代町文化財調査報告書第9集) 2001
- 伊草侃斗 「五社神社」レジュメ
- 文化財工学研究所 「県指定文化財現況調査票 五社神社本殿」
- 秋山手芸研究所 「家紋総合データベース家紋百景ライブラリ」



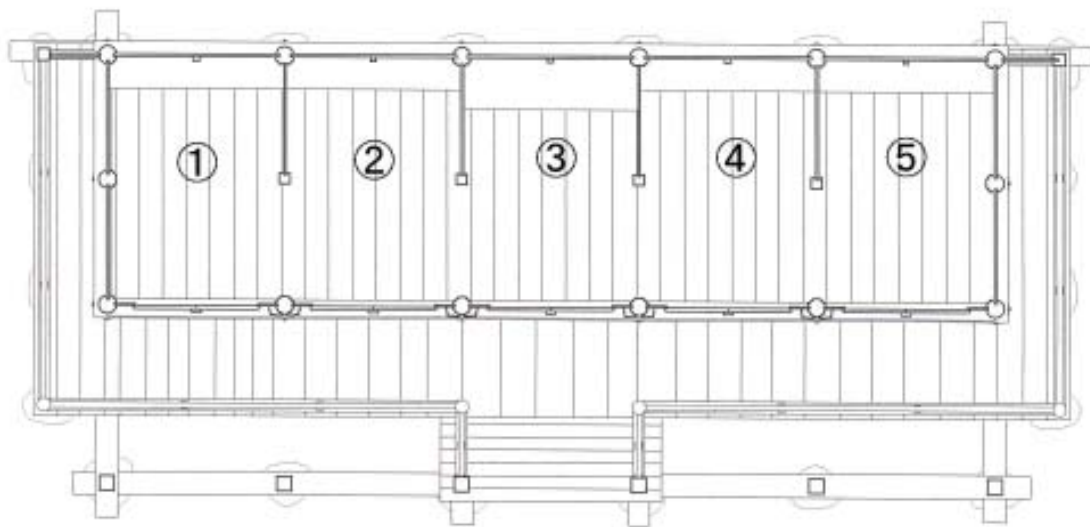
西光院絵図



五社神社本殿



五社神社本殿内部



五社神社本殿配置図

本殿



本殿 の状況



和鏡 1箱



和鏡 1内部



和鏡 1挟紙



和鏡 1



和鏡 1 昆沙門天像

本殿



本殿 の状況



和鏡 2御神体



和鏡 2台座裏 墨書き



和鏡 2台座



和鏡 3箱

本殿



和鏡 3 内部



和鏡 3 箱蓋銘



和鏡 3 挟紙



和鏡 3



和鏡 3 千手觀音像

本殿



本殿 の状況



和鏡 4 箱



和鏡 4 内部



和鏡 4 挟紙



和鏡 4



和鏡 4 阿弥陀如来像

本殿



本殿 の状況



和鏡 5



和鏡 6箱



和鏡 6 挟紙



和鏡 6 内部



和鏡 6



和鏡 6 不動明王像

本殿



本殿 の状況



和鏡 7



和鏡 8箱



和鏡 8内部



和鏡 8挟紙



和鏡 8



和鏡 8 薬師如来像



和鏡 8 薬師如来像背面
墨書